

リョービグループ 環境データ2018

環境マネジメント

独自の環境方針のもと、環境への取り組みを着実に進めています

リョービグループ環境方針

リョービグループは、経営環境を取り巻く様々なリスクの回避・低減を図り、事業活動から生じる環境負荷を低減するための取り組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

① リスク・環境負荷を低減します。

- ① 業務プロセスで生じるリスクの特定・回避・低減に取り組みます。
- ② 製品のライフサイクルの各段階で生じる環境負荷の特定・低減、環境汚染の予防に取り組みます。
- ③ 省エネルギー・省資源に取り組みます。
- ④ CO₂排出量の削減に取り組みます。
- ⑤ 産業廃棄物の減量化・再資源化に取り組みます。

② 環境に関する法令・条例・協定および利害関係者からの要求事項を順守します。

③ 全構成員に対し、環境に関する教育や啓蒙活動を通じて、環境改善に取り組む意識の向上を図ります。

④ 環境保全活動を通じて、地域社会に貢献します。

⑤ 上記①～④を達成するために、環境目標を設定し、施策を実行して、その結果に基づく見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

⑥ この環境方針は、全構成員に周知させるとともに、社外にも公開します。

環境負荷低減目標

リョービグループでは、CO₂排出量と廃棄物の削減について、次の目標を設定し、目標達成に向けてグループ全体で取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

- ・2020年12月までにCO₂排出量生産高原単位を2013年度比で、13%削減する。
- ・CO₂排出量生産高原単位を前年度比1%削減する。(国内海外共通の目標)

廃棄物の削減

- ・2020年12月までにリサイクル率を99.0%以上にする。

マテリアルバランス

生産工程における廃棄部分のほとんどを再利用するなど、投入と排出のバランスを徹底管理。

リョービグループでは、必要なエネルギーや資源の投入量（INPUT）と、事業活動から発生するCO₂や廃棄物の排出量（OUTPUT）を把握し、バランスを考えながら、より効果的な環境負荷低減への取り組み、環境に配慮した事業活動を推進していきたいと考えています。また、ダイカスト製品の原材料であるアルミニウムはリサイクル性に優れており、生産工程において発生するバリ（製品とならない部分）を社内で再溶解し、再利用しています。

INPUT

原材料

アルミニウム合金	129,795 t
プラスチック 他	3,322 t
アルミニウムスクラップ 他	20,080 t

エネルギー使用量

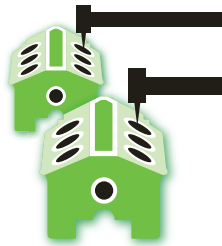
電気	159,401,750 kWh
都市ガス	4,275,844 m ³
LPG	1,322,615 kg
LNG	999,520 kg
油(原油換算)	13,072 kl

水使用量

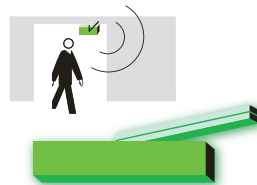
水	1,083,368 m ³
---	--------------------------

2017年度 国内実績

ダイカスト



建築用品



印刷機器



OUTPUT

製品

ダイカスト製品	125,430 t
アルミニウム鋳物	13,872 t
プラスチック製品	2,592 t
アルミニウム合金	17,817 t
ドアクローザ	257,740 台
印刷機器	1,280 台

温室効果ガス

CO ₂ 排出量	149,853 t-CO ₂
---------------------	---------------------------

PRTR法対象化学物質

PRTR法対象化学物質	7 t
(大気中への排出量)	

廃棄物

廃棄物	6,770 t
-----	---------

環境に配慮した“ものづくり”を推進、各分野で成果をあげています

CO₂削減への取り組み

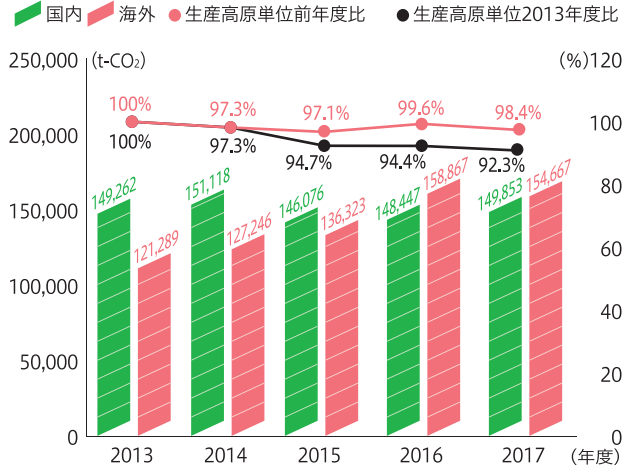
さまざまな省エネルギー施策の実施により、
CO₂排出量生産高原単位を2013年度比
92.3% (7.7%削減)、前年度比98.4% (1.6%削減)。

「2020年12月までにCO₂排出量生産高原単位を2013年度比で、13%削減する」および「CO₂排出量生産高原単位を前年度比1%削減する」の2つの目標を掲げ取り組んでいます。

2017年度のCO₂排出量生産高原単位は、2013年度比92.3% (7.7%の削減)、前年度比98.4% (1.6%の削減)となりました。

アルミ溶解炉の燃料転換(重油→LNG)、加工機械の運用・設備改善、コンプレッサーの効率的な利用およびエアリーク改善、省エネタイプの照明機器への交換、鑄造機保持炉の放熱防止など、さまざまな省エネルギー施策を実施することで原単位の改善に努めています。

CO₂排出量の推移



※原単位 = CO₂排出量 (t-CO₂) / 生産高

物流関連への取り組み

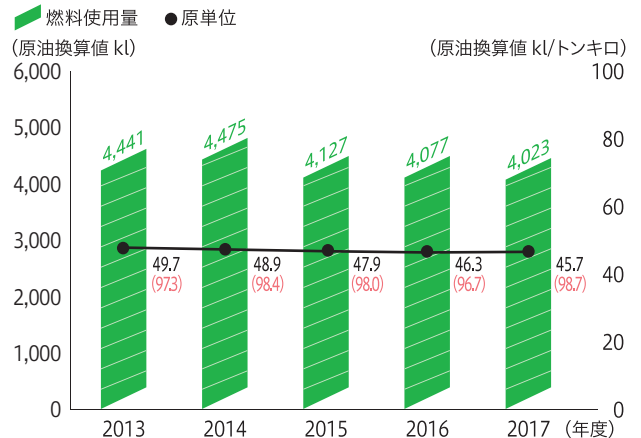
効率的な物流システムの構築を推進。
原単位を前年度比98.7% (1.3%削減)。

エネルギー使用の合理化を推進することを目的とし、貨物輸送に関するエネルギー(燃料)の使用量の削減、効率的な物流システムの構築を進めています。

2017年度の貨物輸送に関するエネルギーの使用量は、原油換算値で4,023klとなり、前年度より54kl減少しました。また、1 tの貨物を1 km運搬するのに要する原油量(原単位)も、1.3%減少しました。

2018年度も、海外生産品をお得意様に近い港へ運ぶことで国内の輸送距離の短縮や倉庫間移動の削減などにより、輸送の効率化に取り組んでいきます。

貨物輸送に関するエネルギー(燃料)使用量の推移



※原単位 = 貨物輸送のエネルギー使用量(原油換算値 kl) / トンキロ

※トンキロとは、貨物輸送量を表す単位。輸送した貨物重量(t) × 輸送距離(km)を乗じたもの

※()内は、原単位の前年度比(%)

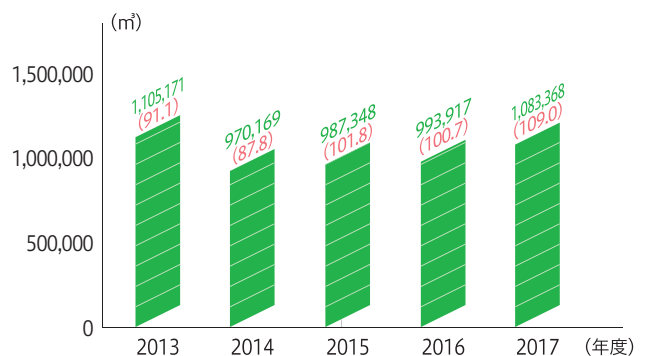
水資源の効率利用への取り組み

水使用量は、前年度比109.0% (9.0%増加)。

2017年度の水使用量は約1,083千m³となり、前年度より9.0%増加しました。

工業用水の循環利用や流量計確認による漏水への早期処置対応など、使用量を適切に管理することで使用量の削減に取り組んでいきます。

水使用量の推移

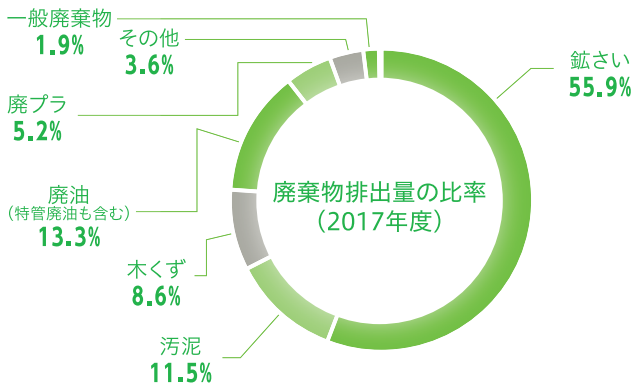


※()内は、水使用量の前年度比(%)

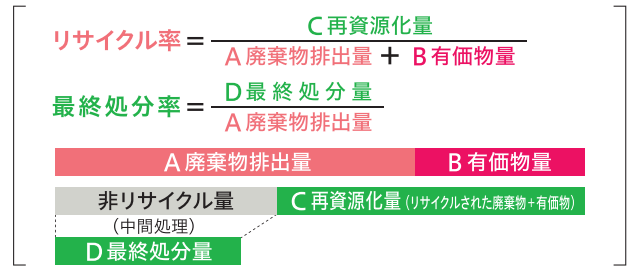
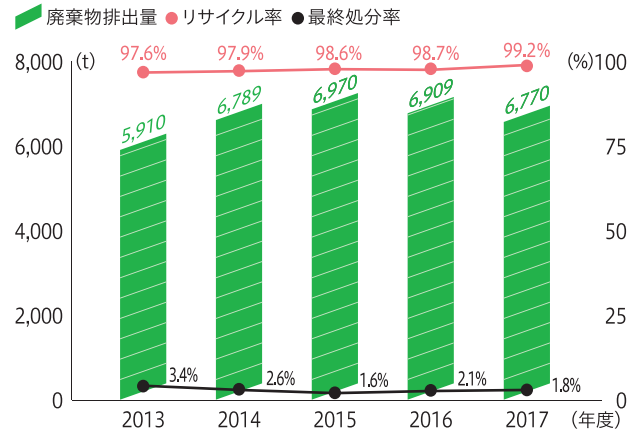
廃棄物への取り組み

埋め立て処理が必要な廃棄物の排出量を削減。
リサイクル率**99.2%**、最終処分率**1.8%**。

2017年度の廃棄物排出量は6,770tで、前年度比で約2%減少しました。廃棄物の分別徹底により埋め立て処理される廃棄物の排出量を減らすことで、リサイクル率は99.2%、最終処分率は1.8%となりました。



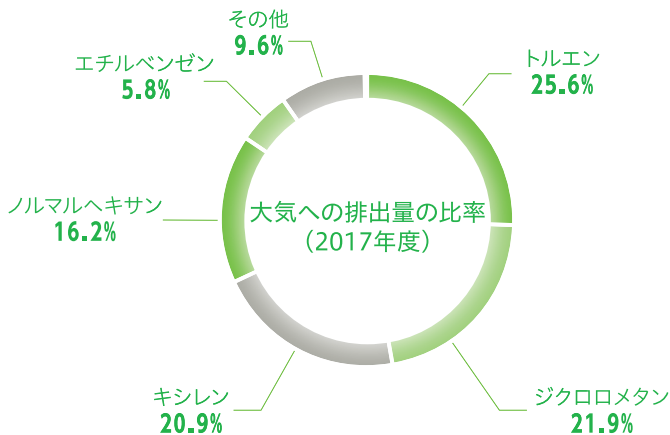
廃棄物排出量の推移



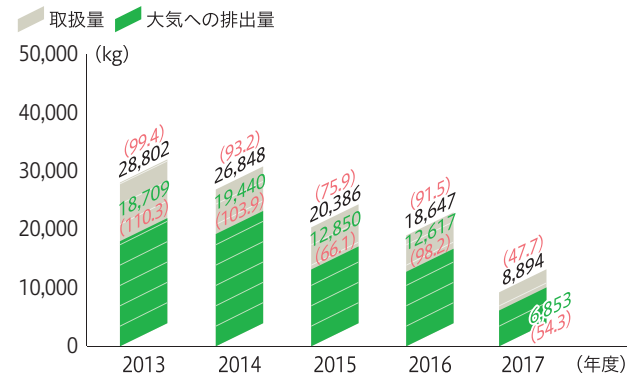
有害物質への取り組み

有害物質の大気中への排出量は、前年度比54.3% (**45.7%削減**)。

2017年度のPRTR法対象化学物質の取扱量は約9t、大気中への排出量は約7tとなりました。取扱量は前年度比47.7% (52.3%削減)、大気中への排出量は前年度比54.3% (45.7%削減)となりました。



PRTR法対象化学物質排出量の推移



※ ()内は、取扱量あるいは大気への排出量の前年度比 (%)

RYOBI リョービ株式会社

本 社 〒726-8628 広島県府中市目崎町762
TEL 0847-41-1111
東京支社 〒114-8518 東京都北区豊島5-2-8
TEL 03-3927-5541

※この環境データに関するお問い合わせは、人事・総務部 総務課まで TEL 0847-41-1145

無断複製・転載等を禁止します。